

令和7年度 学校評価		
本年度の 重点目標	・ コミュニケーション手段を適切に選択・活用し、円滑に人と関わる力の育成を図る。 ・ 心身の健康に対する理解や意識を深め、たくましい心と体を育てる。 ・ 家庭や地域に対して積極的に働きかけを行い、ともに子供たちを育てていくという視点に立った学校づくりを推進する。 ・ 学ぶことに興味や関心をもてるような授業づくりを推進し、基礎的・基本的な学力や自主的に学ぼうとする力を育てる。 ・ 業務の見直し、会議の精選及び効率化、協働的な業務遂行など、学校全体の多忙化解消をさらに推進し、子供たちに対して効果的な教育活動を行うことができるようにする。	
担当（項目）	重点目標及び具体的方策	留意事項
総務部	・学校ホームページやマチコミメールの内容を充実させ、必要な情報が確実に届くよう運営する。 ・関係行事の計画及び調整を行いながら、PTA活動を円滑に行う。また、PTA活動を、子供たちの教育環境の充実につなげる。	・ブログなどで学校の教育活動の様子などを積極的に発信する。 ・保護者と協力し、業務の精選や運営の方法を見直す。
教務部	・一人一人の学習状況や学びに向かう困難さを把握し、学習集団の工夫やICT機器の活用を推進することで、個別最適な学びと協働的な学びを実現する。 ・教科指導や特別支援教育の専門性を高めることで、学ぶことに興味や関心をもてるような授業づくりを目指す。	・子供たちの実態や目標の変化に柔軟に対応するために、PDCAサイクルを活用して指導や支援の方法を適宜見直し、実践をする。 ・部会や日頃の情報交換の中で目指す子供像について共有し、それぞれの教職員の専門性を生かし、多角的に指導にあたる。
生活指導部	・実践的な避難訓練を実施し、子供たちや教職員が緊急時に迅速かつ安全に行動できるようにする。 ・給食を通じて、子供たちに食の大切さや食文化についての理解を深めることを目指す。	・地域の消防署や警察署と連携し、定期的に避難訓練を実施する。 ・給食や食に関することについて、栄養教諭を中心に情報を発信したり、学級や部を超えて交流したりする機会を設定する。
進路指導部	・子供一人一人の障害特性に応じて、社会参加と自立した生活を目指すための適切な進路選択と進路実現を支援する。 ・校外学習や職場体験など多様な進路の体験を通して、子供たちが卒業後の生活を具体的にイメージできるよう支援する。	・子供たちの希望や可能性を尊重しながら、本人・保護者・関係機関と連携し、現実的で安心できる進路決定ができるように支援を行う。
自立活動・ 研修部	・子供たちが自己理解を深めながら、社会自立に必要な他者と関わる力や伝え合う力を養うことができるようにする。 ・職員研修の機会を設け、子供たちへの理解を深め、それぞれの個性に合わせた指導を行うための知識や技術向上を図る。	・自立活動の時間における指導とともに、日頃の学習活動や学校行事等、教育活動全般を通して必要となる力を育む意識を高める。 ・子供たちの実態、教職員のニーズに応じ、研修内容を設定する。
いじめ防止等	・子供一人一人が活躍できる場や機会を作り、学校が居心地の良い場所となるようにする。 ・日常から子供たちからの言動を受容的、共感的に受け止める姿勢を大切にし、子供たち一人一人とのコミュニケーションを図る。	・子供たちの理解を深め、学校生活全体を通して、得意なことを生かせるようにする。 ・子供たちの小さな変化に気付けるように、意識して関わるようにする。言動の背景も考えられるように、チームで対応に心掛ける。
勤務時間の適切な 管理及び長時間労働による健康 障害防止	・業務改善をさらに進めるとともに、業務を複数の教職員で取り組めるように配置し、業務負担を分散する。 ・定時退校日を増やすことで、自己で仕事を切り上げる仕組みを工夫できるように促す。	・孤立化しないように、複数の教職員で業務を遂行する意識を高める。 ・定時退校日を増やし、教職員のタイムマネジメントスキルを高められるようにする。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		幼稚部、小学部、中学部、高等部、校務分掌